

番号	災害発生鉱山 管轄産業保安 監督部	県名	発生年月日時間	鉱種	鉱山労働者数 A:9人以下 B:10~49人 C:50~99人 D:100人以上	災害事由	罹災者数(人)				原因となった装置・施設 等	危険有害要因(ハ ザード)の内容	災害概況	リスクマネジメント実施状 況(発生前)	原因	対策	詳細情報	
							死亡	重傷		軽傷								計
								4週間 以上休 業のも の	2週間以 上4週間 未満休 業のもの									
1	関東	埼玉	平成24年 8月31日(金) 12:30頃	石灰石	D	外・発破火薬類					発破	岩盤内の粘土の挟み による弱線部の存在	12:30頃、山頂ベンチ980mLにおいて以下の発破規格にて発破を 実施。 (孔数:7孔、抵抗、孔間:3.2m×3.2m、穿孔長:14m、穿孔径: 65mm、装薬量 計200kg(1孔あたり28.5kg)) 発破の際、作業監督者は、切羽に爆砕石が飛散したことを目視し たが、飛石は確認できなかったため、発破終了の旨を無線連絡し た。 13:00頃、現場作業員より協調探掘を実施している隣接鉱山の残 壁吹付箇所粘土分が付着していると現場責任者に報告があり、 現場責任者が残壁を確認したところ、飛石(粘土分含む)により、隣 接鉱山の残壁面が点々と汚れていることを確認したため、隣接鉱 山の現場責任者と自社保安管理者代理者に報告した。 13:50頃に保安管理者代理者と現場責任者で現場を詳細に確認 したところ、発破箇所から約90m離れた隣接鉱山残壁990mL犬走 りに設置してある転石防止柵の支柱が折れ曲がり、約3mの区間 に亘って壊れていることを確認した。(人的被害無し)	亀裂の多い発破孔の過装 薬による飛石発生リスク は抽出。ただし、粘土によ る弱線部による飛石発生 については、未抽出。	飛石が発生したと推定される発破孔と切羽面の 間に穿孔時に確認できなかった粘土層が介在 するとともに、装薬前に実施した根切り作業に より、切羽面下部の発破抵抗が薄くなった状態 のまま、通常の装薬量により発破を行ったため 飛石が発生した。	・現況調査、作業手順書の改定 ・現場作業責任者及び作業監督者による切羽状況の確認 徹底を図り、打掛発破等、適正発破の選択を実施。 ・保安日誌における巡視点検すべき項目の明確化及び異 常があった場合の連絡体制等の明確化。	—	